

ニホンジカの生態と対策

ニホンジカ(以下シカとする)は森林と草原との間を行き交う「林縁の生活者」です。生息地が農林業生産の場と重なりやすく、被害を引き起こしやすくなります。被害を防止するためには、生態や特徴を正確に知り、集落内の生活痕跡は見逃さないことが大切です。

シカの生活痕跡 (フィールドサイン)



生態

食性 アセビなど特定のものを除いて、ほとんどの植物を食べる草食動物です。冬期には、秋に草刈りをした道路わきやあぜなどに芽吹いた緑草を好んで食べます。



行動 1.6m以上の高さを超えるほどのジャンプ力を持っています。ただし、かかとが丈夫ではないため、網などのかかたを傷つけるのを嫌います。通常オスとメスは別々の群れをつくって行動しています。活動は昼夜を問わず、2~3時間採食して、2~4時間反芻をするリズムをくり返しています。

繁殖 交尾期は年1回で、9~11月頃、出産期は5~6月頃。満2歳で初産を迎え、以後毎年1頭を出産します。寿命は10~12歳程度です。



特徴

- 警戒心が強いですが、図太さも持ち合わせています。
- 昼間は森林域にいて、田畑には夜間に出てくることが多くなります。
- 視覚と聴覚は人間と大差ありませんが、嗅覚が発達していて、臭いで危険を察知します。「ピィッ」という警戒音を発して仲間に危険を知らせます。
- 田畑の地際にすき間があれば、くぐり抜けることができます。



被害状況

主に食害で、食性の幅の広さから水稻、大豆、野菜、飼料作物など、あらゆる農作物が対象となります。水稻では踏み荒らしも深刻です。

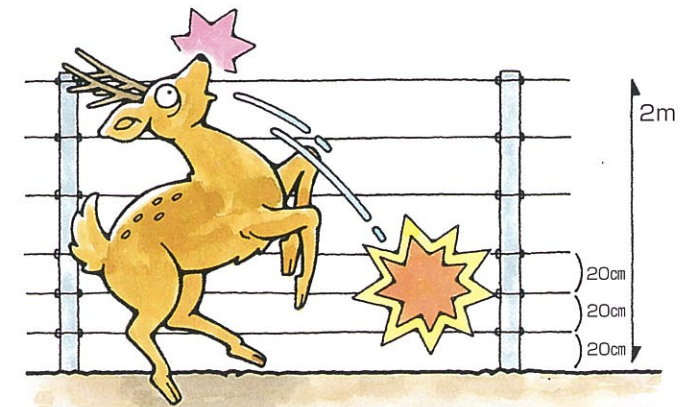


被害防止のためのワンポイント・アドバイス

1 防護柵の高さは2m程度に!

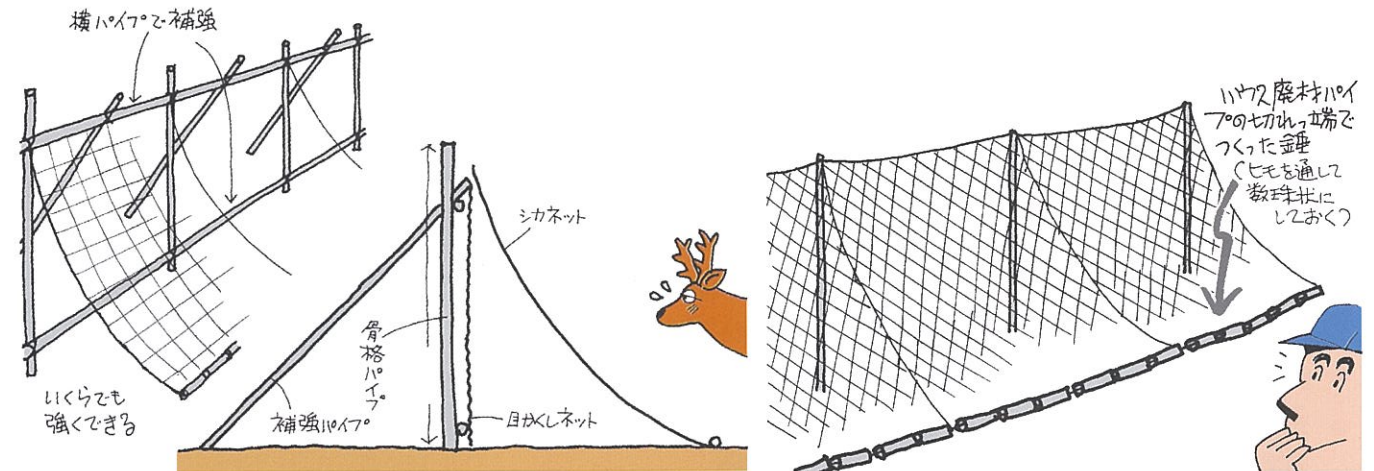
- 防護柵によって物理的にシカの侵入を防ぐのが最も効果的です。
- 柵にはトタン、ネット、金網フェンス、電気柵などがありますが、柵の高さを2m程度にする必要があるため、シカにはトタン板は向いていません。
- ネットはステンレス線が編みこまれたものを斜めに張るのが有効です。
- 対象となる動物がシカだけの場合には、電気柵の必要はなく、効果や耐久性からすると、高価ですが金網フェンスも有効な選択肢の一つです。

電気柵の設置例



電気柵もシカが地面に足を着けていないと効かない

ネット柵の設置例



※ 斜めにたらししたネットは、イノシシが出るならイノシシネットも必要

斜めにネットをたらすとシカの飛び込み防止になる

2 くぐり抜けにも対応を!

イノシシにも対応する場合に適しているのは電気柵ですが、電気柵を設置する場合には電気線6~7段張り、2mほどの高さが必要です。また、くぐり抜けできないように、下3段の電線の間隔を20cm程度とする必要があります。

3 定期的に柵のメンテナンスを!

柵に穴が空いたりすると、シカはその穴の場所を覚えて執拗に侵入しようとします。補修はしっかりと行い、侵入されないように定期的な管理が必要です。